

主に従う驚くべき恵み

ヨハネの福音書21:1~6



復活のイエス弟子たちと再会

1. 復活のイエスさまがガリラヤ湖畔へ
2. ペテロは漁に出たが何もとれなかった
3. 舟の右側に網をおろしなさい
4. おびただしい魚で網をひきあげれなかった
5. イエスさまと一緒にパンと魚を食べる
6. ペテロに3度の質問

主により頼む

心を尽くして主に拠り頼め。自分の悟りにたよるな。あなたの行く所どこにおいても、主を認めよ。そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。(箴言3:5-6)

自分の悟りに頼るな

心を尽くして主に拠り頼め。自分の悟りにたよるな。とは、自分を放棄して、自分以外の何者かの「あやつり人形になれ」ということではない。「私はこうしたら良いと思うが、神さまだったらどうされるだろうか」と自分で祈り、考えることであり、従っていく時、神さまに導かれる体験をし、実を結ぶようになっていく。

いつでもどこでも主を意識しよう

あなたの行く所どこにおいても、主を認めよ。これを実行することは難しいことだが、自分の考えに固執すると失敗し続ける。人生を歩んでいるとむずかしい岐路に立つことも多い。日々の中でも様々な問題に出くわす。それゆえ、より多く主に拠り頼む必要がある。

いつでもどこでも主を意識しよう、心がけていると、自分なりに多くの時間を祈りとみことばの学びに費やせれるようになる。寝床の中で祈り、通勤電車の中で聖書を読み、仕事でも合間を見て祈るなどしていると喜びがやってくる。次第に神の驚くべき恵みを経験させていただくようになる。

わたしはみ言葉を与えられて、これを食べました。み言葉は、私の喜びとなり、心の楽しみとなりました。(エレミヤ15:16)

やらなければでなく、祈りの中で神さまから指示をいただいていると、自分の考えや方針がまとまっていく。自分がやれない分は全部、神さまが、直接やってくださるか、他の方々をとおしてやってくださる。

あなたのしようとすることを主にゆだねよ。そうすれば、あなたの計画はゆるがない。と箴言16章3節にあるとおりである。

21:1 この後、イエスはテベリヤの湖畔で、もう一度ご自分を弟子たちに現わされた。その現わされた次第はこうであった。

21:2 シモン・ペテロ、デドモと呼ばれるトマス、ガリラヤのカナの子たち、ゼベダイの子たち、ほかにふたりの弟子がいっしょにいた。

21:3 シモン・ペテロが彼らに言った。「私は漁に行く。」彼らは言った。「私たちもいっしょに行きましょう。」彼らは出かけて、小舟に乗り込んだ。しかし、その夜は何もとれなかった。

21:4 夜が明けそめたとき、イエスは岸べに立たれた。けれども弟子たちには、それがイエスであることがわからなかった。

21:5 イエスは彼らに言われた。「子どもたちよ。食べる物がありませんね。」彼らは答えた。「はい。ありません。」

21:6 イエスは彼らに言われた。「舟の右側に網をおろしなさい。そうすれば、とれます。」そこで、彼らは網をおろした。すると、おびただしい魚のために、網を引き上げることができなかった。

ヨハネの福音書

21:15~17

21:15 彼らが食事を済ませたとき、イエスはシモン・ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたは、この人たち以上に、わたしを愛しますか。」ペテロはイエスに言った。「はい。主よ。私があなただを愛することは、あなたがご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの小羊を飼いなさい。」

21:16 イエスは再び彼に言われた。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。」ペテロはイエスに言った。「はい。主よ。私があなただを愛することは、あなたがご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を牧しなさい。」

21:17 イエスは三度ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。」ペテロは、イエスが三度「あなたはわたしを愛しますか。」と言われたので、心を痛めてイエスに言った。「主よ。あなたはいつさいのことをご存じです。あなたは、私があなただを愛することを知っておいでになります。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を飼いなさい。」

とりなしてくださるイエスさま

「しかし、わたしは、あなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈りました。だからあなたは、立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」 (ルカ22:32)

回復を与えてくださるイエスさま

1. あなたは…わたしを愛しますか (アガパオー)
2. 私があなただを愛することは、あなたがご存じです (フィレオー)
3. あなたは、わたしを愛しますか (アガパオー)
4. 私があなただを愛することは、あなたがご存じです (フィレオー)
5. あなたは、わたしを愛しますか (フィレオー)
6. 私があなただを愛することを知っておいでになります (フィレオー)

「アガパオー」「フィレオー」

まるで言葉遊びでもしているかのようである。主イエスは、ペトロに「私を愛しているか」と聞く。しかも3回も。ペトロも3回「それはあなたがご存知です」と答える。これは3回主イエスを否んだことが背景にあるのは確かである。主イエスが使う「愛しているか」と聞く「愛する」という単語と、ペトロが使う「愛している」という単語

は異なる。そこに拘ることはないという学者や説教者も多い。しかし、単なる言葉遊びをしているとは思えないからである。

主イエスは2回「アガパオー」という神が主語の時に使われる「相手の在り方に関係ない一方的な無償の愛」を表す言葉が使われた。それに対してペトロは最後まで「互いに支え合う友愛」を意味する「フィレオー」で返している。

3度主を「知らない」と言った彼が、もう二度と大きな口を叩くことなく、謙虚になっていることがその言葉から受け止められる。

神に対する人の愛

パウロがアガペーを人に対するクリスチャンの愛の意味で用い、神に対する愛の意味ではほとんど用いていないということに、アウグスティヌスは驚きをもって気付いていたと言われる。

なぜアガペーが神に対する愛の表現としてパウロによって用いられなかったのか、という問題の答として、スネイスは、「人間の神に対する愛は、神からの愛と同じでは有り得ず、神の愛に対する応答に過ぎないからアガペーを用いなかった」というニグレンの言葉を引用し、さらにアガペーに代る言葉としてパウロがピステューオー／ピスティス（信じる・信仰）を用いていると説明する。